

会議議事録

会議名	2019年度第2回医療事務分野教育課程編成委員会
開催日時	2020年2月20日(木) 10:00~12:00
場所	本校7階 704教室
出席者 (敬称略)	<p>① 企業等委員：須貝和則(国立国際医療研究センター医事管理課長)、横堀由喜子(日本病院会学術部長)、山室 靖(東京衛生病院医事課課長)、直井智之(東大和病院事務部長) (計4名)</p> <p>② 本校委員：橋本正樹(校長)、村山由美(医療秘書科学科長兼医師事務技術専攻科学科長)、深澤由紀子(医療秘書科副学科長)、黒田 潔(医療マネジメント科学科長兼診療情報管理専攻科学科長)、三宅かおり(医療マネジメント科副学科長兼教務委員長)、宮下明久(事務局長)、(計6名)</p> <p>③ 事務局：松本晋圭(計1名)</p> <p style="text-align: right;">(合計11名)</p>
欠席者	江崎侑子(診療情報管理専攻科教員)
配付資料	<p>① 事前送付：□資料1：2019年度第1回医療事務分野教育課程編成委員会議事録案、□資料2：2019年度第1回委員会以降の主な経過報告、□資料3：2019年度学校関係者評価報告書、□資料4：2019年度主な内定先(2019年1月末時点) □資料5：2019年度教育活動と学科運営に関する報告、□資料6：2019年度教員研修計画・実績、□資料7-1：2019年度授業公開報告書、□資料7-2：2019年度授業公開報告書・別紙資料1、□資料8：2019年度後期授業アンケート結果報告、□資料9-1：2020年度カリキュラム案医療秘書科、□資料9-2：2020年度カリキュラム案医療マネジメント科、□資料9-3：2020年度カリキュラム案診療情報管理専攻科</p>
委員長	橋本校長
議題等	<p>1. 校長挨拶</p> <p>修学支援新制度、いわゆる高等教育の一部無償化が4月からスタートし、本校もその対象校として認定された。この仕組みには教育の質の保証と情報公開、その前提となる学校の自己点検・自己評価、本日の委員会のような継続的なPDCAサイクルに基づく活動が求められている。</p> <p>一方、医療を取り巻く仕事にも、働き方改革に端を発するタスクシフト、タスクシェアの流れの中で大きな変化が生まれつつある。医療界の第一線で活躍されている委員の皆様には、医療事務の仕事の現在と将来に関する専門家の視点からの意見、カリキュラムへのご提言をいただきたい、との挨拶が行われた。</p> <p>2. 2019年度第1回委員会議事録案の確認(説明者：事務局松本)</p> <p>資料1に基づき、前回議事録について訂正がなければ、ホームページでの公開等の準備を進めたい旨の発言があり、特に異議なく、確認、了承された。</p> <p>3. 2019年度第1回委員会以降の主な経過報告(説明者：宮下事務局長、事務局松本、</p>

村山学科長、黒田学科長)

資料 2、3、4 に基づき報告が行われ、確認、了承された。詳細は別紙のとおり。

4. 2019 年度教育活動と学科運営に関する報告 (説明者：村山学科長、黒田学科長)

資料 5 に基づき各学科の説明が行われ、確認、了承された。詳細は別紙のとおり。

5. 2019 年度教員研修計画・実績 (説明者：三宅教務委員長)

資料 6 に基づき説明が行われ、確認、了承された。詳細は別紙のとおり。

6. 授業公開に関する報告 (説明者：三宅教務委員長)

資料 7-1、7-2 に基づき説明が行われ、確認、了承された。詳細は別紙のとおり。

7. 授業アンケートに関する報告 (説明者：橋本校長)

資料 8 に基づき説明が行われ、確認、了承された。詳細は別紙のとおり。

8. 2020 年度生カリキュラム編成について (説明者：村山学科長、黒田学科長)

資料 9-1～9-3 に基づき各学科の説明が行われ、確認、了承された。詳細は別紙のとおり。

議題 8 までの報告、説明終了後、企業等委員から全体を通しての質問、意見、提案があり、意見交換が行われた。詳細は別紙のとおり。

9. 今後の日程、その他

事務局より、次回の日程は改めて調整させていただく旨の事務連絡が行われ、閉会した。

以上

2019 年度第 2 回医療事務分野教育課程編成委員会の主な討議内容

3. 2019 年度第 1 回委員会以降の主な活動報告

○事務局松本、宮下事務局長、村山学科長、黒田学科長より、資料 2、3、4 に基づき以下の報告が行われた。

1. 学校関係者評価関連

- ・11/17 2019 年度第 2 回学校関係者評価委員会
- ・2/10 2019 年度学校関係者評価報告書の校長への提出（資料 3）
- ・3/15 2019 年度第 3 回学校関係者評価委員会開催予定

2. 学生の状況関連

(1) 退学の状況

(2) 就職内定の状況

- ・大規模病院、国立病院への就職が増えている。
- ・職種別では、医師事務作業補助者の求人が増えている。
- ・1 月末時点のインターンシップ専攻の内定者比率が昨年と比べて若干低くなっている。学校での勉強を最後までやれるよう病院側に理解を求めた成果が出ているものと思う。
- ・主な内定先は資料 4 のとおりである。

(3) 2019 年度 2 年次コース選択状況

3. 2019 年度授業アンケート

- ・授業アンケートの全体の実施状況を示している。
- ・授業アンケートの他に、学校生活に関する調査（満足度調査）を実施した。

4. 2020 年度学生募集関連

4. 2019 年度教育活動と学科運営に関する報告

○村山学科長、黒田学科長より、資料 5 に基づき各学科の特徴的なことについて以下のとおり報告が行われた。

(ア) 医療秘書科

(教育活動)

- ・教育活動は計画どおり実施できた。
- ・資格取得についても目標はほぼ達成した。特に、医療秘書技能試験 3 級の卒業時保有率 100% を達成することができた。

(学科運営)

- ・前年同様、1 年次は基礎学力の定着を図ることを目的に専門科目の検定受験時期を後期に配置し、一般科目の秘書検定を前後期に配置した。
- ・2 年次後期のクォーター制を徹底し、学生の満足度を上げることができた。

(イ) 医療マネジメント科

(教育活動)

- ・ほぼ滞りなく運営されている。
- ・4 年生は研究成果の発表、実習、研修が無事終了した。

(学科運営)

- ・退学者、退学率は前年に比べて低下した。
- ・1年生対象のキャリアデザインに社会人化教育に関するものやメンタル対策などを導入した。
- ・就職未決定者への支援を行っていく予定。

(ウ) 診療情報管理専攻科

(教育活動)

- ・今月9日に診療情報管理士認定試験が実施された。結果は来月上旬に出るが、模擬試験、小テスト、対策講座、スマホアプリの活用などにより対策を強化した。

(学科運営)

- ・専攻科に進学する学生が増えるのはよいことだが、学力が高くない学生への指導、実習先の確保が課題になると思う。
- ・診療情報管理専攻科の学生が、医療マネジメント科1年生に対して、2年次コースの選択についてアドバイスをする機会を設けた。

(エ) 医師事務技術専攻科

(教育活動)

- ・ゼミ形式の授業が多かった。一つ一つ丁寧に答えてもらえたため、学生の満足度は高かった。

(学科運営)

- ・アンケート結果がどの教科もほぼマックスの4で推移していることから、学生の期待に応えられたものと捉えている。

5. 2019年度教員研修計画・実績

○三宅教務委員長より、資料6に基づき以下の報告が行われた。

- ・8月24日～30日に江崎委員がアメリカの医療機関の実態調査のため現地視察に行き、帰国後、その報告会を行った。
- ・本校主催のものでは、校友会による「2020年の診療報酬改定のポイント」について説明をした。
- ・教務委員会主催の教員研修を行った。(1回目:ハラスメント研修:2回目:タイムマネジメント研修)

6. 授業公開に関する報告

○三宅教務委員長より、資料7-1、7-2に基づき以下の報告が行われた。

- ・6月17～28日の2週間を基本として実施した。
- ・本校の重点目標であるアクティブラーニングの導入やICT機器の利用をしている授業を一覧で表示して参考に供した。
- ・参観者数は前年度並み。

7. 授業アンケートに関する報告

○橋本校長より、資料8に基づき以下の報告が行われた。

- ・授業の改善に役立てるため、1週間程度で先生方にフィードバックしている。
- ・評価は4点満点。先生へのコメントを自由に記述する欄もある。
- ・直接学生の声を授業に生かすことで、退学の防止などにつなげていきたい。

8. 2020年度生カリキュラム編成について

○村山学科長、黒田学科長より、資料9-1～9-3に基づき以下の報告が行われた。

(ア) 医療秘書科 (資料9-1)

- ・「秘書実務Ⅱ」：一般知識を身につけさせることをメインとし、2020年度生からは準1級を目標にしている。
- ・「プレゼンテーション演習」：パソコン演習Ⅳに含まれていたものを別立てにし、2年次の病院事務実習で得られたこと、1年生に対して教えたいことを題材として発表会を行う。
- ・「DPCの基礎」：特定のコースだけで学んでいたものを共通科目にした。
- ・「病院受付事務Ⅲ」：ⅠとⅡだけだったものにⅢを加え、電話応対に力を入れている。

(イ) 医療マネジメント科 (資料9-2)

- ・2018、2019年度に大幅改定をしたので、2020年度はコーディング、DPC、がん登録の変更が主になっている。
- ・「コーディング演習Ⅱ」：診療情報管理士コース(2年次後期)に移した。
- ・「DPC基礎演習」：1年次後期に配置した。
- ・「がん登録演習」：診療情報管理士コースに新設した。
- ・「電子カルテ演習Ⅲ」：医療事務コースに新設した。

(ウ) 診療情報管理専攻科 (資料9-3)

- ・DPCを管理士の受験資格科目に変更した。
- ・「医学用語実践」：新設。
- ・「がん登録演習」「カルテ読解」「国際統計分類Ⅱ」は若干の変更。
- ・「キャリアデザインC」：就活支援、社会人化教育をきちんとカリキュラムに加えた。
- ・「医療情報技師概論」：医療情報技師教育の強化のために設けた。

○全体を通しての企業等委員からの質問、提案、意見交換の概要は次のとおり。

質問・意見等	回答等
--------	-----

<p>現状では、診療情報管理士の人を医師事務として採用したい。</p> <p>医師事務の仕事を病院側が確立できていない。医師事務を学んだ学生が、就職すると違うところに配属されることがあると思う。</p> <p>就職後に人間関係でメンタルをやられることはあるが、学生のときにはどういうことで起こるのか。</p> <p>この世界はやらなければいけないことがたくさんあるので、教職員のメンタル面を発散させることが必要になるのではないかと。</p> <p>内部で話をするだけでなく、外に出て話をするには効果がある。一つの手段としてやってみるとよい。</p> <p>今回、医師事務作業補助者を用したが、診療情報管理専攻科と、医療秘書科の学生が両方入ってきたときに、病院としてキャリアプランをどう持てばよいのか戸惑った。</p> <p>就職は、今後診療情報管理士よりも医師事務のほうが多くなると思うし、がん登録の就職先より医師事務のほうが明らかに多い。診療情報管理専攻科に医師事務の意味合いを強く持たせて、さらにもっと高いレベルは社会人から迎え入れて、実効性のある育て方の基礎をつくとよい。</p> <p>医療秘書科はどのような戦術をとるかは難しいが、診療所や病院の事務受付を目指すなど、色合いをはっきりさせたほうが育てやすい。</p>	<p>診療情報管理専攻科はニーズとフィットしているので、就職もよい。</p> <p>医師事務という職種に限らず、適性に応じて異動があるという指導はしている。</p> <p>新しい環境になじめないとか、体育祭などでの出来事がきっかけになることもある。もともと人間関係を築くことが苦手な子や、高校は通信制だったなどの素因を持っている学生が陥りやすい。</p> <p>我々の仕事には、専門領域の教育のほかに学級運営、学生指導等があり、そこで消耗していることは感じられる。限られた人数の中でやっているのに、1人、2人欠けると大変なことになる。</p> <p>外部の方と話をすると視野が広がるので、その点は十分検討していきたい。</p> <p>診療情報管理士の資格を取ると、医師事務の認定書も日本病院会から取れる。両方持っていれば、最初医師事務であっても、年齢が上がって診療情報管理士に配属されることもあるので、そのように指導するとよいのではないかと。</p> <p>医療マネジメント科の2年次で医師事務の授業を行っているが、病院側の認定はグレーゾーンになっていて、結局は管理士の資格が取れないと認められないとする解釈が多い。</p>
--	--

追加) 医療事務系学科編成案について

○橋本校長より、追加資料に基づき、医療事務系学科の再編案について以下の説明が行われた。

- ・高等教育の一部無償化は継続した教育が対象となるため、現行2年制プラス1年の形で行っている診療情報管理士の養成を3年制の診療情報管理科（入学定員80名）で行う。

- ・医療マネジメント科を改組し、医療事務 I T 科（2 年制・入学定員 40 名）をスタートさせる。
- ・医療秘書科のコースに医療コンシェルジュを加え、その後も若干の変更を行う。
- ・医療秘書科を男女共学とする。積極的に男性を募集するのではなく、2 年への進級時に転科ができる仕組みとする。
- ・専門課程以外に、医師事務も含めた 3 学科（短期講座）を設置する。

○企業等委員からの質問、回答、意見交換の概要は次のとおり。

質問・意見等	回答等
<p>医療コンシェルジュはどのようなイメージか。</p> <p>インバウンドの V I P が対象となることが多いので、外国人の対応ができる人が欲しい。</p> <p>男子を集めたいという意味か。</p> <p>卒業時には医療情報技師まで取らせてほしい。</p> <p>電子カルテの導入のときに S E 的な人が入ってきて、医療事務は全然わからなかったが、今は大分話が通じるようになった。</p> <p>病院のデータを一通り分析できたり、エクセルで上手に資料を作ってくれる人材が欲しい。</p>	<p>ニーズは調査中だが、富裕層を対象とした人間ドックや健診センターをターゲットにしている。</p> <p>メディカルツーリズムに対応できる人材が必要になる。A I ではできないところの人材養成を医療秘書科の考え方の基本に置いてやっていきたい。</p> <p>医療コンシェルジュには、診療報酬の知識よりも接遇・ホスピタリティが求められると思う。</p> <p>医療事務 I T 科では、医療情報基礎知識、M O S のマスター、情報セキュリティ概論などは常識として教えたい。1 年次は診療情報管理科と同じメニューにして、転科を容易にする。</p> <p>男子をもっと入れたい。</p> <p>医療情報技師は 3 年制の診療情報管理科で取らせる予定だが、少し難しいので、その前段階の医療情報基礎知識を 2 年で取らせたいと思っている。</p> <p>S E と医事課のつなぎ役としてサポートできる人材を出口として開発したい。</p> <p>パソコンはさらに強化して、電子カルテから必要なデータを抽出し、統計化を提案でき</p>

<p>単純作業をロボットに置き換えるRPAについて、研究する必要があると思う。</p> <p>病院で使っているシステムを教員が研修で見学に行かせていただくことは可能か。</p>	<p>るような展開を考えている。</p> <p>新たなAI、ITの中で動く仕組みを使える人材になるよう、カリキュラムに落とし込めるとよい。</p> <p>依頼状をもらえれば大丈夫だと思う。</p>
--	--

以上